

自著と
その周辺

Wilms Tumor

Chapter 8. Dendritic Cell-Based Cancer Immunotherapy
Targeting Wilms' Tumor 1 for Pediatric Cancer. pp113-130.
Marry M. van den Heuvel-Eibrink (編)
ISBN : 978-0-9944381-1-9
(BOI : <http://dx.doi.org/10.15586/codon.wt.2016>)

293項
2016年刊行
Codon Publications,
Australia

代表的な PLoS ONE をはじめオープンアクセスジャーナルはここ数年で著しく増加し、2012年から年間1,000を超えビジネス化してきています。出版社や学会費により運営されている雑誌とは異なり、オープンアクセスジャーナルは論文が掲載された研究者が掲載料を負担しますが、埋もれてしまう論文を文字として残せること、著作権が著者らに帰属すること、受理から掲載まで極めて迅速、読者には無料で閲覧できる恩恵があります。ただし、オープンアクセスジャーナルでは、編集方針、専門的な Editorial board 構成員、論文の質を維持するピアレビュー機能、掲載料を精査する必要があります。

電子書籍においてもオープンアクセスの英文著書が増加していますが、樹状細胞ワクチン療法に関する Wilms Tumor (ISBN : 978-0-9944381-1-9, BOI : <http://dx.doi.org/10.15586/codon.wt.2016>) 初版は、オランダの小児血液腫瘍の Princess Maxima Center の Marry M. van den Heuvel-Eibrink 博士編で、オーストラリアブリスベンにある Codon Publications から出版されました。オンラインで無料ダウンロードができ (<http://codonpublications.com>)、著作権は Codon Publications に帰属しますが、Creative Commons Attribution 4.0 International (CCBY 4.0) に従って、著者と出版社の出典を明記すれば自由に引用出来ます。投稿後にまず、本文の記載内容と文献の引用表記との一致率が10%未満であることが出版社により調査され、その後編集長を含めてピアレビューされ、掲載の可否が決定されました。さらに図表の引用に関して出典許諾の有無を確認されましたが、受理から3カ月あまりで電子版、引き続きハードカバーの書籍がリリースされました。Wilms Tumor の専門書としては、基礎から臨床まで幅広く、Section I Epidemiology, Diagnostics, and Treatment, Section II Biology, Section III WT1 Gene Aberrations in Other Malignancies に章が分けられ、Chapter 1 から16までの293ページに跨ります。

近年、がん治療における革新的な技術として、免疫チェックポイント阻害薬や遺伝子改変型T細胞療法があります。20年前に単球から樹状細胞に改変できる技術が見出され、その樹状細胞を用いた樹状細胞ワクチン療法は抗原特異的能動免疫を誘導する技術です。1973年に樹状細胞発見の功績によりノーベル生理学・医学賞を授与されたスタインマン教授自身が、自らの膵臓癌に対して樹状細胞を使った免疫療法を受け4年半の闘病生活を送られていました。Wilms' tumor 1 (WT1) はあらゆるがん、肉腫、白血病に発現する、最も priority の高い腫瘍抗原です。信州大学において先進医療暫定Aとして実施されていた WT1ペプチド付加樹状細胞ワクチン療法は、膵臓がん、大腸がん、肺がん、乳がん、胃がんを適応症として成人が対象でした。本書に掲載された Chapter 8 では、WT1 を標的とした樹状細胞ワクチン療法を小児の Wilms 腫瘍例および神経芽腫例に適用した国内外最初の報告になります。また、300dpi 以上の画質の図は全て著者らのオリジナルのもですが、WT1特異的能動免疫のモニタリングとして WT1-tetramer 解析により経時的に評価されています。樹状細胞ワクチンにより獲得され、持続している免疫環境において、標準的な化学療法の上乗せは、難治性疾患においても生存期間の延長が示唆されました。今後、保険導入を目的とした先進医療制度において、樹状細胞ワクチン療法の多施設共同前向き試験の準備を進めており、将来、免疫チェックポイント阻害薬と最適化した樹状細胞ワクチン療法の確立が期待されます。

(金沢医科大学再生医療学 下平 滋隆)